

# 公益財団法人 福岡アジア都市研究所 定款

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この法人は、公益財団法人福岡アジア都市研究所と称する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を福岡県福岡市に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目的)

第3条 この法人は、都市政策に関する調査研究、知識の普及及び情報の収集、提供、アジア諸都市との研究交流並びにこれらに関する事業を通じ、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

### (事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 都市政策に関する調査研究及び情報の収集、提供に関すること。
- (2) 講演会、研究会の開催等都市政策に関する知識の普及に関すること。
- (3) 研究誌等の刊行物の発行に関すること。
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は福岡市及びその周辺において行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

### (財産の種別)

第5条 この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。
- 3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

### (財産の管理運用)

第6条 この法人の財産の管理運用は、会長が行うものとし、その方法は理事会の決議により別に定める基本財産等管理運用規程によるものとする。

### (基本財産の維持及び処分)

第7条 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

- 2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を受けなければならない。

### **(事業年度)**

**第8条** この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

### **(事業計画及び収支予算)**

**第9条** この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、直近の評議員会へ報告するものとする。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項に規定する書類は、毎事業年度開始の日の前日までに行政庁に提出しなければならない。

3 第1項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

### **(事業報告及び決算)**

**第10条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3箇月以内に、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項各号に規定する書類は、当該事業年度経過後3箇月以内に行政庁に提出しなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

4 この法人は、第1項の定時評議員会の終結後遅滞なく貸借対照表を公告しなければならない。

### **(公益目的取得財産残額の算定)**

**第11条** 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

### **(会計原則)**

**第12条** この法人の会計は、一般の公正妥当と認められる公益法人の会計の基準に従うものとする。

- る。
- 2 この法人の会計処理に必要な事項は、理事会の決議により別に定める会計規程によるものとする。

## 第4章 評議員 (評議員)

**第13条** この法人に、評議員4名以上8名以内を置く。

### (評議員の選任及び解任)

**第14条** 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「一般社団・財団法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

- 2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。
- (1) 各評議員について、次のアからカに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。
- ア 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族
  - イ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
  - ウ 当該評議員の使用人
  - エ イ又はウに掲げる者以外の者であつて、当該評議員から受ける金銭その他の財産によつて生計を維持しているもの
  - オ ウ又はエに掲げる者の配偶者
  - カ イからエまでに掲げる者の3親等内の親族であつて、これらの者と生計を一にするもの
- (2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のアからエに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。
- ア 理事
  - イ 使用人
  - ウ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者
  - エ 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者
    - ① 国の機関
    - ② 地方公共団体
    - ③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人
    - ④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人
    - ⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人
    - ⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもつて設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

#### (任期)

**第15条** 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第13条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

#### (評議員に対する報酬等)

**第16条** 評議員は無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、評議員会の決議により別に定める評議員、理事及び監事の報酬等並びに費用に関する規程による。

### 第5章 評議員会

#### (構成)

**第17条** 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

#### (権限)

**第18条** 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 評議員、理事及び監事の選任及び解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

#### (開催)

**第19条** 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時評議員会を開催する。

#### (招集)

**第20条** 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

### (招集通知)

**第 21 条** 会長は、評議員会の日の 1 週間前までに、会議の日時、場所及び目的を記載した書面によりその通知を発しなければならない。ただし、評議員の全員の同意がある場合には招集の手続きを経ることなく評議員会を開催することができる。

### (議長)

**第 22 条** 評議員会の議長は、その評議員会において、出席した評議員の互選により選出する。

### (決議)

**第 23 条** 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) 基本財産の処分又は除外の承認
- (4) その他法令で定められた事項

### (決議及び報告の省略)

**第 24 条** 理事が評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案につき議決に加わることができる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

2 理事が評議員の全員に対して評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことにつき、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

3 前 2 項に定めるもののほか、評議員会の決議及び報告の省略に関する事項は法令の定めるところによる。

### (議事録)

**第 25 条** 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議事録には、議長及び出席した評議員のうちから議長が指名した議事録署名人 1 名以上が署名又は記名押印しなければならない。

## 第 6 章 役員

### (役員の設定)

**第 26 条** この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 6 名以上 10 名以内
- (2) 監事 2 名以内

2 理事のうち 1 名を会長、1 名を理事長、1 名を副理事長、1 名を常務理事とし、会長及び理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事、副理事長及び常務理事を一般社団・財団法人法上

の業務執行理事とする。

#### (役員を選任)

**第27条** 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 会長、理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 監事は、この法人の理事及び評議員又は使用人を兼ねることができない。
- 4 各理事について、当該理事及びその配偶者又は三親等内の親族その他公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令（以下、「認定法施行令」という。）第4条に定める特別の関係にある者の合計数は理事総数の3分の1を超えてはならない。
- 5 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他認定法施行令第5条に定めるこれに準ずる相互密接な関係にある理事の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。
- 6 監事の選任に関する議案を評議員会に提出する場合は、監事の同意を得なければならない。

#### (理事の職務及び権限)

**第28条** 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 副理事長及び常務理事は、会長及び理事長を補佐し、この法人の業務を執行する。
- 5 会長、理事長、副理事長及び常務理事の職務権限は、理事会において別に定めるところによる。
- 6 代表理事及び業務執行理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

#### (監事の職務及び権限)

**第29条** 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

#### (役員任期)

**第30条** 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 3 理事又は監事は、第26条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

#### (役員解任)

**第31条** 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任するこ

とができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないと認められるとき。

2 理事及び監事は、一般社団・財団法人法第 65 条第 1 項に規定する者に該当するに至ったときは、その地位を失う。

#### (報酬等)

**第 32 条** 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、評議員会が定める理事及び監事に限り、報酬を支給することができる。

2 役員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

3 前 2 項に関し必要な事項は、評議員会の決議により別に定める評議員、理事及び監事の報酬等並びに費用に関する規程による。

#### (役員損害賠償責任の一部免除)

**第 33 条** この法人は、一般社団・財団法人法第 198 条で準用される同法第 111 条第 1 項の規定による、理事又は監事（理事又は監事であった者を含む。）の損害賠償責任について、同法第 114 条その他法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議により、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

### 第 7 章 理事会

#### (構成)

**第 34 条** 理事会は、すべての理事をもって構成する。

#### (権限)

**第 35 条** 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 会長、理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職

#### (招集)

**第 36 条** 理事会は、会長が招集する。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、理事長が理事会を招集する。

3 理事会を招集しようとするときは、会長は、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対し、理事会の目的である事項並びに日時、場所及びその他必要な事項を記載した文書により通知を発しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、理事会は招集の手続きを経ることなく開催することができる。

#### (議長)

**第 37 条** 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、理事長が理事会の議長となる。

#### (決議)

**第 38 条** 理事会の決議は、この定款に別段の定めがあるもののほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

#### (決議及び報告の省略)

**第 39 条** 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事がその提案に異議を述べたときは、この限りではない。

2 理事又は監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会へ報告することを要しない。

3 前項の規定は、第 28 条第 6 項の規定による報告には適用しない。

#### (議事録)

**第 40 条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印しなければならない。ただし、理事会の決議の省略及び報告の省略があった場合はこの限りではなく、法令で定めるところによる。

### 第 8 章 賛助会員

#### (賛助会員)

**第 41 条** この法人の趣旨に賛同し、後援する個人又は団体を賛助会員とすることができる。

2 賛助会員に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める賛助会員規程による。

### 第 9 章 定款の変更・合併及び解散等

#### (定款の変更)

**第 42 条** この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 一般社団・財団法人法第 200 条第 1 項の規定にかかわらず、この定款に規定する目的並びに評議員の選任及び解任の方法は、前項の規定によりこれを変更することができる。

3 第 1 項の規定にかかわらず、第 45 条の規定はこれを変更することができない。

4 認定法第 11 条第 1 項各号に掲げる事項に係る定款の変更(軽微なものを除く。)をしようとするときは、その事項の変更につき、行政庁の認定を受けなければならない。

5 前項以外の変更を行った場合は、遅滞なく、その旨を行政庁に届け出なければならない。

#### (合併等)

**第 43 条** この法人は、評議員会において、決議に加わることのできる評議員の 3 分の 2 以上の決議により、他の一般社団・財団法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡をすることができる。



2 前項の行為をしようとするときは、あらかじめその旨を行政庁に届け出なければならない。

#### (解散)

**第44条** この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能、その他法令で定められた事由によって解散する。

#### (公益認定の取消し等に伴う贈与)

**第45条** この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、福岡市に贈与するものとする。

#### (残余財産の帰属)

**第46条** この法人が解散等により清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、福岡市に贈与するものとする。

### 第10章 情報公開及び個人情報の保護等

#### (情報公開)

**第47条** この法人は、公正で開かれた活動を推進するため、その活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開するものとする。

2 情報公開に関する必要な事項は、理事会の決議を経て、別に定める。

#### (個人情報の保護)

**第48条** この法人は、業務上知り得た個人情報の保護に万全を期すものとする。

2 個人情報の保護に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

#### (公告の方法)

**第49条** この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

### 第11章 事務局

#### (事務局)

**第50条** この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に、所要の職員を置く。

3 事務局の職員は会長が任免する。ただし、事務局長は、理事会の承認を経て、会長が任免する。

4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、別に定める。

### 第12章 補則

#### (委任)

**第51条** この定款に定めるもののほか、この定款の施行について必要な事項は、理事会の決議を

経て、別に定める。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第 8 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の登記の日に就任する理事及び監事は、次に掲げる者とする。
  - 理事 今長岳志
  - 理事 遠藤泰昭
  - 理事 高崎繁行
  - 理事 橋田紘一
  - 理事 原重実
  - 理事 本田正寛
  - 理事 前川聡幸
  - 理事 松本法雄
  - 理事 森本廣
  - 理事 安浦寛人
  - 監事 石田佳久
  - 監事 竹田伸剛
- 4 この法人の最初の代表理事は、次に掲げる者とする。
  - 会 長 橋田紘一
  - 理事長 安浦寛人
- 5 この法人の最初の業務執行理事は、次に掲げる者とする。
  - 副理事長 松本法雄
  - 常務理事 原重実
- 6 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。
  - 上田憲幸
  - 小川雄平
  - 加茂晶三
  - 小早川明德
  - 野田順康
  - 松原孝俊
  - 山崎一樹

## 附 則

この定款は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。